

共有検討テーマ1 産業の広域連携と中国圏の特徴となる産業振興

【中国圏の特性】

○産業構造

- ・産業構造面では、製造業が相対的に大きく、サービス業が相対的に小さい。最近の約30年間の経済成長率は、中国圏が全国で最も低い、サービス業の伸びが小さいことが成長率低迷に大きく影響。
- ・事業所の開業率、廃業率は全国水準を下回り、新陳代謝が活発であるとは言えない。

○モノづくり

- ・鉄鋼・化学などの基礎素材産業の集積に特徴があり、輸送用機械の割合も高い。
- ・減少傾向にあった出荷額は近年回復基調にあり、特に輸送用機械と鉄鋼の動向が反映。電気機械や石油・石炭製品は順調に増加。
- ・輸出は増加傾向で、韓国・中国などのアジアが主体。品目としては自動車・鉄鋼・石油化学品が牽引。
- ・地場企業の海外進出は、中国を中心として大きく増加。
- ・特許などの知財（工業所有権出願件数）は、地方圏の中では中国圏が最も多い。

○知識産業・都市型サービス業

- ・雇用を牽引しているサービス業のなかでは、医療・福祉サービス業と産業支援サービス業の増加が主体。但し産業支援サービス業は、都市型あるいは知識集約型の業種において伸びが弱い。
- ・小売業は規制緩和以降、大型店の郊外展開が進み、中心市街地のシェアが低下。



【検討課題】

○国際競争力のあるモノづくり分野などの産業振興

- ・県境・ブロックを超えたモノづくりクラスターの形成
- ・コンビナートの国際競争力強化
- ・バイオ・環境・エネルギーなどの新産業の振興
- ・地域資源を活かした新産業の創出

○雇用を牽引する知識産業・都市型サービス業の振興

- ・都市型・知識集約型サービス業の振興
- ・医療・福祉サービス業などの基礎生活サービス業の振興

○ブロック内、都市圏内の経済循環を高める

- ・ブロック・都市圏内の経済循環の実態
- ・経済循環を高める方策



【分科会での検討の進め方】

●第1回

- 検討テーマ・検討方法の確認
- モノづくり分野などの産業振興

(例示)

- ・中国地方新生ビジョン(中経連)
- ・中国圏基礎資料
- ・中国地域産業クラスター計画(経産局)
- ・コンビナート国際競争力強化戦略など

●第2回

- サービス業の振興

- ・学識者提出資料・構成団体提出資料など

●第3回

- ブロック内、都市圏内の経済循環
- まとめ

- ・経済・生活圏調査報告書(産創センター)
- ・学識者提出資料・構成団体提出資料
- ・第1回～第2回までの検討資料

共有検討テーマ2 中山間地域と都市との連携、それぞれが果たす役割

【中国圏の特性】

○中山間地域

- ・集落規模が小さいという特徴があり、今後、小規模集落から消滅が危惧される。
- ・基礎的医療科目のない市町村が全体の半数を占めるなど、生活サービス機能の水準が低下。
- ・地域経済の縮小が進展し、都市部との所得格差も拡大。
- ・自治振興区レベルで、都市との交流事業を通じて地域活性化を進める事例がある。

○都市と中山間地域

- ・市町の境界を越えた通勤依存関係(通勤圏)があることにより、規模の大きい都市と小さい町との間に、就業機会を通じた相互依存と補完関係がある。
- ・都市圏の規模によって成長性が異なっており、小規模都市圏は縮小傾向。一方、大都市圏ほど広域的な人口吸引力を持つ。
- ・人口規模が概ね20万人以上の都市圏では、一定の医療・商業力を有するが、10万人未満では水準がやや低下し、5万人未満では水準が大きく低下する傾向にある。

○都市

- ・総じて、中心市街地の衰退が進行。
- ・都市再生事業として、拠点都市では都市再開発事業の集中的実施の計画があり、小規模都市でも都市再生のための取組が開始されている。
- ・拠点都市圏は国際機能を有するが、一方で渋滞等の交通問題を抱える。



【検討課題】

○中山間地域の再構築～持続的な地域経営の観点

- ・ゾーニングによる各地域の役割の明確化
- ・生活サービスの拠点づくり、都市との交流による活性化

○生活の拠点となる生活拠点都市圏の充実

- ・都市圏の規模や配置、カバーエリア

○成長の拠点となる中枢・中核都市圏の役割と発展

- ・強化すべき都市機能と役割分担



【分科会での検討の進め方】

●第1回

○検討テーマ・検討方法の確認

○中枢・中核拠点都市圏の役割と発展

(例示)

- ・中国地方新生ビジョン(中経連)
- ・中国圏基礎資料
- ・広島都市圏中枢拠点機能調査研究
- ・学識者提出資料、構成団体提出資料など

●第2回

○中山間地域の再構築

- ・中国地方中山間地域振興協議会提供資料
- ・“地域の元気”に対する事例研究(整備局)
- ・日本一の田舎づくり計画(島根県)
- ・学識者提出資料、構成団体提出資料など

●第3回

○生活サービス拠点都市圏の充実

○まとめ

- ・経済・生活圏調査報告書(産総センター)
- ・学識者提出資料、構成団体提出資料
- ・第1回～第2回までの検討資料

共有検討テーマ3 中国圏内の交流・連携、中国圏内外の交流・連携、中国圏外との交流・連携

【中国圏の特性】

○地域間の交流

- ・ 人的・経済的な面では、瀬戸内海側の東西間交通量が大きく、関西や九州との繋がりも強い(国土軸)。
- ・ 高速道路の開通により、都市間の交通量が大きく高まるが、南北方面は事業中、山陰方面は基本計画区間や予定路線区間がかなりある。
- ・ 高速道路インターチェンジに30分以内で到着できる圏域は、山陰側で空白地帯が多い。
- ・ ブロードバンド普及率はやや低い水準にあり、山間部を中心として未普及自治体がある。

○広域観光

- ・ 出雲文化・吉備文化を始め、固有の歴史文化を有する。
- ・ インバウンドは東アジアからの入り込みの比率が低い。

○空港・港湾

- ・ 空港の国際路線は韓国・中国方面が主体であり、地元空港利用比率が低く、隣接ブロックへ流出。
- ・ 港湾は分散型配置であるが、海上貨物量の全国シェアは大きく、港湾を利用した輸出入が増加傾向にあるなど、モノづくりの国際競争力の基盤としての役割は大きい。
- ・ コンテナ貨物は着実に増加しているが、域内港湾利用率は5割で、半分が流出。



【検討課題】

○山陰・山陽の連携強化、県境を越えた連携、広域ブロック間の連携

- ・ 高速ネットワークの整備とその活用
- ・ ブロードバンドを活用した分散型地域経営

○広域観光の振興

- ・ 広域観光・インバウンドの実態や動向の把握
- ・ 国際化・高齢化に対応した観光資源間の連携とルート形成方策

○世界に開かれた交流と貢献～グローバルゲートウェイ機能

- ・ 分散型の空港・港湾配置を活かしたグローバルゲートウェイ機能の向上
- ・ 人・情報のグローバル化を進める高次都市機能や都市基盤のあり方



【分科会での検討の進め方】

●第1回

- 検討テーマ・検討方法の確認
- グローバルゲートウェイ機能の強化

(例示)

- ・ 中国地方新生ビジョン(中経連)
- ・ 中国圏基礎資料
- ・ 中国地方における国際物流の現状と課題
- ・ 広島都市圏中枢拠点機能調査研究
- ・ 学識者提出資料、構成団体提出資料など

●第2回

- 広域観光の振興

- ・ 学識者提出資料、構成団体提出資料など

●第3回

- 広域連携のための基盤整備と活用
- まとめ

- ・ みらいビジョン中国21“2004”
- ・ 学識者提出資料、構成団体提出資料
- ・ 第1回～第2回までの検討資料